

コミズスマシ

Gyrinus curtus Motschulsky

コウチュウ目ミズスマシ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

普通種とされるが、水辺環境の改変や外来種の侵入などにより、全国各地で生息地が減少している。県内の生息地は2箇所のみであり、1997年を最後に確認されていない。

形態

体長4.7~5.6mm。黒色で鋼様の光沢があり、肢は黄褐色である。体型は楕円形で長さは幅の約1.8倍。背面はよく膨隆し、体下面は平坦。上翅はやや隆起し、中央部で最も幅広く、11条の点刻を有する。オス交尾器中央片は先端に向かい細まり、末端は弧状を呈する。

国内分布

北海道、本州、四国、九州。

県内分布

加賀市（加佐岬、片野鴨池）。

生態

成虫は水面を巡回し、水面に落ちた小昆虫を捕食するとされる。幼虫も肉食とされる。県内では3月、5月に確認されている。

生息地の条件

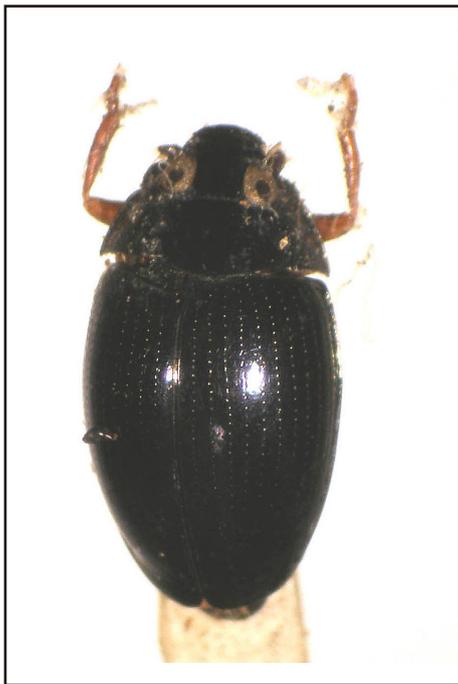
平野部~丘陵部の水生植物の豊富な池沼や流れの緩やかな小河川。

生存の危機

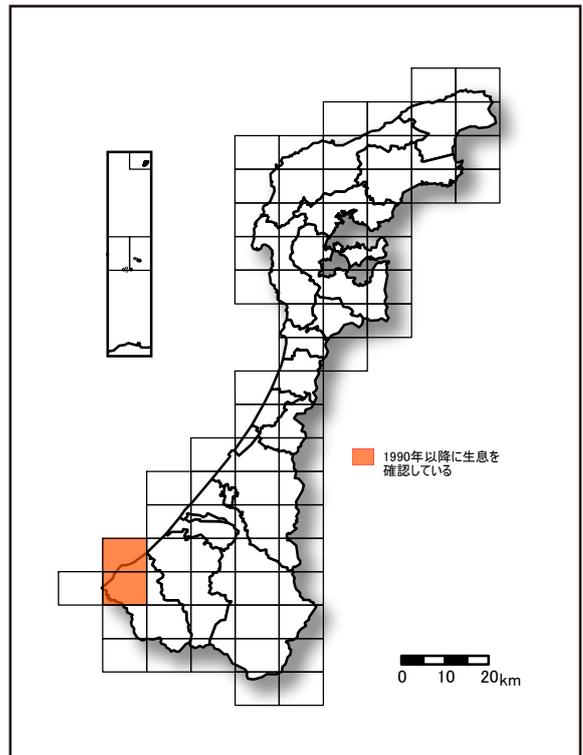
生息地は平野部の水辺であり、池沼の開発による消失、水質汚染（特に油など界面活性剤の流入）による環境破壊を受けやすい。水面上で同様に生活するアメンボ類に比べ、ミズスマシ類の減少傾向は著しい。県内の生息地周辺における分布調査を早急に行う必要がある。片野鴨池では、アメリカザリガニ、オオクチバスが侵入しているため、外来種の駆除および、侵入できない区域の設置などの保全策が必要である。（A、B）

参考文献

横山桐郎 1929. ミズスマシ *Gyrinus curtus* MOTSCHULSKY の卵と幼虫. 昆虫, 3 (2) : 83-84.
佐藤正孝 1977. 日本産ミズスマシ科概説 (1)-(3). 甲虫ニュース, (37) : 1-5, (38) : 1-2, (39) : 1-4.
中根猛彦 1987. 日本の甲虫 (81-82), みずすまし科. 昆虫と自然, 22 (12) : 36-40, 22 (13) : 27-29.



標本提供者: 入場登



県内の分布